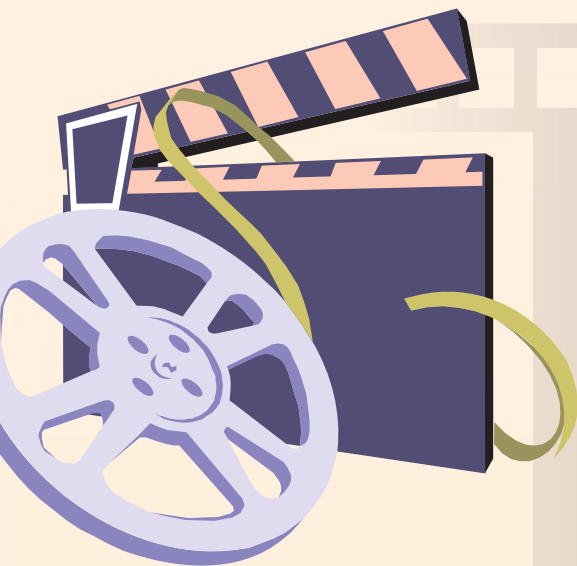




第11回

シネマの中の高齢者

スタッフから俳優まで！ 老人パワー炸裂の市民映画…『いい爺いライダー』

北海道のむかわ町の高齢者たちが、講演に来た映画監督の崔洋一に映画づくりの楽しさを教えられたのが、きっかけだった。2002年に高齢者の映画制作グループ「田んぼ de ミュージカル委員会」発足。最高年齢 90 歳、平均年齢 79 歳。監督、脚本、撮影、俳優まですべてを町の高齢者と町民が行う試みとして始まった。本作は『田んぼ de ミュージカル』（2003）、『田んぼ de ファッションショー』（2005）に続く 3 作目である。

合併問題にゆれる「山彦町」と「海彦町」が舞台。財政難から合併に賛成する人、合併で町名が変われば故郷を奪われると反対する人。町民は真っ二つに分かれてしまう。主人公の幸（コウ）が率いる、山彦町のお年寄りライダー軍団は合併反対を叫び、「ふるさとを守れ」と爆走する。そして高齢ライダー軍団は、昔から行われている海彦町との旗取り合戦で若者たちと競い、合併論争で荒れる町議会へも乱入するが…。

グループの代表で主演を務めるのは、1925（大正 14）年生まれで 87 歳の元気おじいちゃん、原田幸一さん。人口わずか 3400 人の過疎の町で、



写真提供：田んぼ de ミュージカル委員会

お年寄り同士の交流や地域の活性化を目的に映画制作を始めた。ところが完成してみると、映画作りに本気で取り組む高齢者たちのひたむきな姿が評判を呼び、グループはスポニチ文化芸術大賞を受賞してテレビや新聞、海外メディアでも紹介され、本作『いい爺いライダー』は NHK でも放映された。

出演者はお年寄りや町民ら素人なのでセリフは棒読みだが、それぞれの特技や見せ場があるのが楽しい。また、物語がセリフよりもミュージカル・シーンで進められるので、歌あり笑いあり涙ありの脱力系ミュージカル映画となっている。何よりも、みんなで楽しく作ったことが伝わってくる。新作『赤い夕陽のジュリー』もクランクアップしており、まだまだ、ご老体にムチを打ちながら楽しい市民映画を牽引してくれそうだ。

金子 遊（映像作家・批評家）

いい爺いライダー

監督：伊藤好一 脚本：斉藤征義 音楽：FOREVER

出演：原田幸一、太田達志、中村良夫、東栄吉、高橋博志、他

DVD 発売中（田んぼ de ミュージカル委員会）

